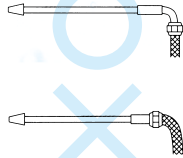


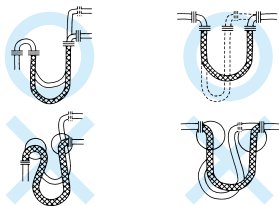
フレキシブルチューブの正しい取扱い

● 長持ちさせるための配管チェック

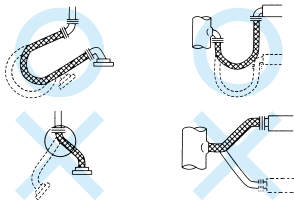
チューブはできるだけまっすぐ取付け



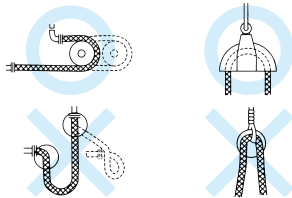
チューブの曲げ半径を確保



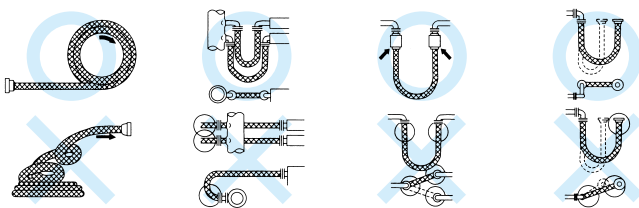
動きのある配管はU字配管が有利



曲げ配管にはガイドが有効



ねじれの加わらない配慮を (回転ジョイントの併用も有効)



使用条件に対する形式の選定と共に、チューブの性質を理解した上での取扱いが使用寿命を伸ばす“ひけつ”です。

● チューブ配管を……

ねじらない

ねじれはフレキシブルチューブで吸収できません。
 ・ねじ込み金具の締めつけは必ず2つのレンチで。
 ・曲げは同一平面内のみが原則。

曲げすぎない

極端に小さい曲げは耐圧性を低くします。
 ・曲げ半径を守ってください。

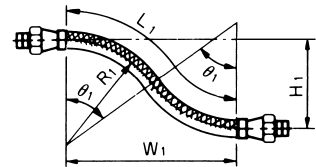
適当な長さに

ワイヤーブレード付チューブに引張り荷重が加わると耐圧性が低くなります。
 ・適当な余裕をとってください。

● チューブの隣接配管にはサポートを

サポートされていない振動配管は振動を増幅することがあります。

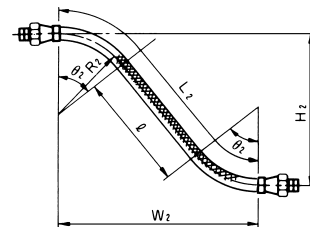
● 必要長さの求め方



$$L_1 = 2R_1 \theta_1$$

$$W_1 = 2R_1 \sin \theta_1$$

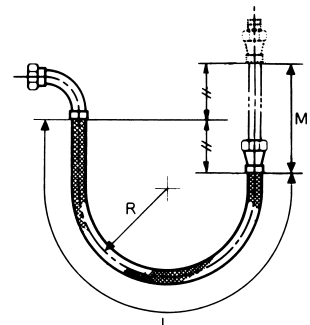
$$H_1 = 2R_1 (1 - \cos \theta_1)$$



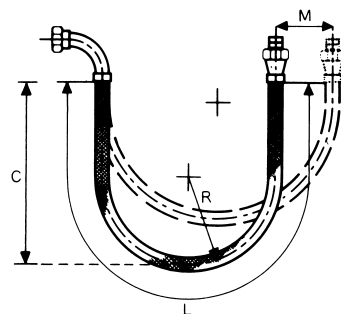
$$L_2 = 2R_2 \theta_2 + l$$

$$W_2 = 2R_2 \sin \theta_2 + l \cos \theta_2$$

$$H_2 = 2R_2 (1 - \cos \theta_2) + l \cos \theta_2$$



$$L = \pi \left(R + \frac{M}{2} \right)$$



$$L = \pi \left(R + \frac{M}{2} \right)$$

$$L = \frac{L - \pi R}{2} + R$$